

2019年度 認定留学 留学報告書

国際交流学科 3年

留学先：オーストラリア ボンド大学附属語学学校

留学期間：2019年8月～2020年1月

私は留学の期間を通して、とにかく多くの人とコミュニケーションをとるように意識しながら生活しました。コミュニケーションをとるということは日本にいると簡単に思われますが、日本であっても私たちは誰とコミュニケーションをとるかを日々選択しながら生活しているし、母国にいると選択することが容易なように感じます。しかし、私は1人で留学したので誰とでもコミュニケーションをとらないとまらない環境にいました。慣れない英語で会話をすることは、自分で選択した留学にも関わらずストレスになることもありましたが、それは確実に私を成長させてくれました。そして、その中で友人を作り他文化を受け入れ、受け入れられ、尊重しあい、本当に貴重な経験をすることができました。特に、海外の友人たちは自分たちの意見を伝えることが大切だということを教えてくれたので我慢するのではなく話し合い解決するということを学びました。最初のうちはその文化に慣れず、自分が嫌だと思うことを相手に伝えることに罪悪感を覚えていたのですが、そんな必要はないと友人が言ってくれたおかげで徐々にできるようになりました。

また、オーストラリアで暮らす中でもできる限りわからないことがあったら自ら質問をしてコミュニケーションをとりました。私の英語は完ぺきではないので、店員さんや事務の方、先生方に1度でうまく説明できなかつたり、通じなかつたりすることが何度もあり、私自身は迷惑をかけてしまって申し訳ないという意識が強く焦ってしまいましたが、そのたびに no worries と言って笑顔で私に寄り添った対応をしてくれました。彼らにとってそれが特別な意味を持っていないとしても、私にとってはものすごく大きな助けとなりました。そして、自分自身もそんな対応ができるようになりたいと強く思うようになりました。

オーストラリアで留学を始めた時はとにかく必要だったためにとっていたコミュニケーションですが、それを通して自分自身が大きな影響を受けました。英語を話すきっかけにもなり、言語習得の上でも本当に大切なことだったと思うし、誰かとコミュニケーションをとるということは本当に私の考え方を成長させてくれました。失敗も多かったですが、ふり返ると本当に価値のある経験でした。